

## IFCA ユースプロジェクト ◎ 議事録

### IFCA 全国ユースネットワーク・オンライン会議（1の2）（日本財団助成事業）

#### 会議のアジェンダ

- ◇ 近況報告と新しいメンバーの紹介
- ◇ 昨年度の活動を振り返って（個人単位の振り返り）
- ◇ 最近行なった YPC 会議と SA 会議の結果と、今年の活動目標・計画について
- ◇ 質疑応答と意見交換

- 日時・場所：2019年4月19日（日）午前10時 Zoom（オンライン）
- ファシリテーター：佐藤ちひろ（東京チーム）
- 出席者：
  - 関西チーム（畠山・西村・芦田・長瀬・Ikumi・畑山・布施）
  - 福岡チーム（西山・橋本）
  - 東京チーム（S.F・Y.N・佐藤ち・永野）
  - 静岡チーム（Koppe・坂間・山本）
  - 全国ネットワーク（国弘）
  - 米国（栗津）
  
- **先回のミーティングの議題** [何が話し合われたか、議題と結果を手短かに発表]：渡米プロジェクト参加者によるオンライン成果報告会 4月のミーティング録画ビデオのリンク <https://vimeo.com/399570863>

[議題を話し合う時、以下の表にアクション・プランとして、誰が、何を、何時までに完了するのかを明記してください。]

議題のポイント	アクション・プラン		
	誰が	何を	いつまでに
プログラムへの理解と団体情報の共有の効率化	栗津	IFCA のズームアカウントを福岡チームと共有	4月20日
今後の取り組みやリーダーシップの取り方についての検討	栗津	IFCA のユースプログラムを理解するための簡単な文章を用意する	次のミーティングまでに (5月17日)
新しいプログラムについて	栗津	スパーク・プログラムという新しい取り組みについて、フォスタークラブに問い合わせる	
地域チームの強化と全国ネットワークの維持	国弘	ドロップボックスを整理 SA 専用の Dropbox の管理人（永野）	次のミーティングで (5月17日)
SAの活動参画	地域チーム すべてのユースとSA	◎ 地域チームごとの目標と計画の作成 ◎ チーム・リーダーの選出  ◎ ワーキンググループへの参加意思の表明	次のミーティングまでに (5月17日)
今後決定する事項	SA全員	SA はサーベイに回答する	5月11日
	プロジェクトチーム	自立支援資料の翻訳のタイムラインを作成	5月の会議でいつまでにできるか決める
	PPチーム	パーマネンシー・パクトの実践に向けて予算書と提案書作成するにあたり、タイムラインを作る	5月の会議でいつまでにできるか決める
	メンバー全員	ストラテジック・シェアリングの指導などを地域でどのようにしてゆくか考える	5月の会議以降に話し合いを持つ

- **補記** [アクション・プランには該当しない会議参加者からの報告などを、ここに箇条書きでリストアップしてください。]

## 会議内容のまとめ

### ◎ 4つの地域チームの参加メンバーから近況報告

- 東京チームに新しいユースが加わった。(S.F.くん)
- 西山さん(SA)によると、福岡チームはNさんとKくんが欠席。
- 静岡チームは、Kくんと坂間さんが同じ場所から参加。
- 関西チームはFさんが仕事で参加できなかったが、麗衣さんが会議中に颯花さんの伝えなかったことを、かわりに発言した。響さんは職場からなので、音声だけの参加。

### ◎ 2019年度の活動を振り返って

- **山本法子(静岡チーム)** 静岡大学にてチームの仲間とともに社会的養護についての授業を行い、啓発活動につながったことが印象深い。これからも啓発につながることをしてゆきたい。
- **Koppe(静岡チーム)** 渡米プロジェクト期間に、自分自身の自立の際に困難だったことを振り返ることができた。フォスタークラブの「パーマシシー・パクト」と「ユースと大人のパートナーシップ」のレッスンを受けて、日本の自立支援に大人との関係づくりのテーマが取り扱われていないことに気づいた。この課題をこれからの取り組みの焦点にしてゆきたい。
- **Ikumi(関西チーム)** ユース・サミットに参加することができた。地域チームを支える役目については、それぞれが、得意分野の中で能力を発揮できたと思う。2020年も積極的に動いてゆきたい。
- **畑山麗衣(関西チーム)** 地域の施設でストラテジック・シェアリング(SS)を教えた。渡米プロジェクト期間中のフォスタークラブとの協働の中で、SSだけでなく、いくつかの自立支援のツールがあることを知り、日本の当事者たちの自立の役に立つものがあるように感じた。
- **F.K.(関西チーム Via 畑山)** フォスタークラブの小さな子どもむけのツールを日本語化して、仕事場(児童養護施設)で、また、日本の子どもたちが使えるようになりたい。
- **Y.N.(東京チーム)** 今年は、自身の大学卒業・就職にまつわる準備がたいへんで、団体のためには思い切り活動ができなかった。公的には、サミットの司会をしたぐらいだろうか。IFCAに加わってから4年。先輩として活動を続けてゆきたい。ユースネットワークは全国活動としてまとまりが出てきたと感じる一方、IFCAの色を失わないような活動であって欲しい。
- **佐藤ちひろ(東京チーム)** 当事者活動5年目の今年は、日本財団の主催する「子どもの権利法勉強会」に参加した。ユースとして感じることは有識者との間にギャップがあること。委員会の中で、大人が適切ではない言葉や表現を使ってしまう場面を見た。当事者の声の大切さを感じた。今年はアドバンス・ユースとして渡米し、他の地域のユースたちのつながりが深くなった。オンバズマンとの出会いと話し合いの機会が持てたのが有益だった。みのりのある2019年度だった。
- **永野咲(東京チーム)** 国会議員の勉強会に智洋さんと参加した。IFCA活動が政府の人たちに直接声を届ける基礎がだんだんできてきている。東京チームにはSAが少なく、ベテランユースに負担がかかっている。渡米プロジェクトでは、当事者活動の核を理解することができた。
- **長瀬正子(関西 SA)** 関西チームはグローバル・リーダーシップ・プログラムに力をいれた。そのためほかにもやりたいことがあったが、なかなか時間がとれなかった。エリックとの交流は心に残っている。昨年11月にユース・サミットと全国当事者交流会が一緒に起こったのはよかった。これからは、どうやってアメリカで学んだことを日本の取り組みにつなげてゆくのが課題である。また、昨年からは、智洋さんのサポートとして、日本財団のワーキング・グループに参加しているが、このような「子どもの権利」をあつかう集まりの中ですら、当事者が安全でない状況があることがわかる。
- **久保樹里(関西 SA)** 今年はSAもユースも加わってよかった。ただとても慌ただしい1年だった。2020年にはユースがさまざまな道にすすみ離れてゆく人たちもいる。エリックが来日し、彼の人間としての一面を見られてとても良かった。専門職のワークショップは、西村先生に手伝ってもら

らい、実施できたし、ユースの集まりも持てた。SSとライフストーリーワーク（生い立ちを知ってゆくイギリスのプログラム）について比べてみるのも興味深い。19年度にはIFCAが発信してきた「アドボカシー」という言葉をよく聞く年になった。名前だけのことではなく、「アドボカシー」の理念が伝わるようにしたいと思う。

- **西村英一郎（関西 SA）** 自分の事務所でミーティングがある時は参加しやすい。これからはもう少し気持ちを改めて参加できるように努力したい。IFCA ユースプロジェクトの全体像が見えなにくいと感じる。意味深い活動をしているようであるが、ぶつ切り参加だとどうしても全体が見えないので、「こんな活動をしている」という概要の整理があるとメンバー全員に役立つ。
- **芦田拓司（関西 SA）** 昨年度1年にわたり参加をした。たいへんタスクが多く、求められるもののレベルが高いと感じた。振り返ってみて、活動を簡素化し、わかりやすいようにすることが大事かもしれないと感じた。SAがまず内容を噛み砕いてユースたちのサポートをするのが良いのかもしれない。これからコロナウイルス感染拡大の状況オン中で、オンライン会議が多くなってくると、分かりにくい部分もあるので、この環境でも活動内容をわかりやすくする工夫をすることが大切である。
- **畠山由佳子（関西 SA）** 全体像がわからないという意見に同感。面白い活動をしているようなのだけれど、全体像が見えにくい。コロナウイルスの状況で先が見えないのが不安であるが、関西チームは1つのユニットとして、これからいろいろな取り組みをして行きたいと思っている。
- **坂間多加志（静岡 SA）** 例年のように、静岡県富士市で開催されるフォスターセッションに、2名のIFCA ユースが登壇した。それから昨年は、ユースたちが市議会議員との会談に参加することができた。ユースの生の質問をぶつけて答えてもらう、という企画だった。ただ若者たちが社会的養護の経験を話すだけでなく、現在、自分や同僚が困っていることを伝え、議員もそれにストレートに答えた。また昨年は、アメリカ・ユースが来日した際、富士市から静岡県に開催地を移し、施設、県庁職員などの専門職も招いてイベントを行った。ユースのメッセージを大事にして欲しい、ということをお訴え続けた一年だったように思う。数年に一度行われる社会的養護の在り方検討委員会では、乳児院、養護施設、県庁などの人たちだけでなく、ユースを入れるように要望した。「パブリック・コメント」にユースの声を入れてゆくこと、委託推進会議にもユースの参画を目指すことが重要である。今年はPPも取り組みたい。
- **国弘志保（ネットワーク・マネージャー）** 昨年からスタッフとして参加したが、「ユースは社会的養護の専門家」であることをユースから直接教えてもらったのが印象深かった。渡米プロジェクトでも、ユースたちは自分たちの経験を堂々と話していたのを目の当たりに見ることができた。夏には合宿も一緒に開催することができた。来年度はユースひとりひとりが、それぞれの強みを活かしながら、自分の可能性をのばす機会をつくるサポートをしたいと思う。
- **栗津美穂（米国ディレクター）** 今年の渡米プロジェクトはスケジュールがタイトで忙しく、何度も高かったのは確かであるが、参加ユースから「内容が難しくわからない、理解できない」というコメントが多かったのが気になった。昨年は4月から10月の7ヶ月、グローバル・フォスターユース・リーダーシップ・プログラムを行った。その目的の1つは、渡米する新しいユースたちが、旅行の前に基礎的な知識を蓄えることだった。プログラム自体は内容も充実していて、スライドやビデオなどの資料をもって団体の重要な成果物を残すことができたが、新しいユースの指導の目的があまり果たせなかったのを残念に思う。また、昨年は地域チームごとの活動の時間があまりなかったという反省が残り、2020年はこの点に改善が必要だと感じる。地域で活動が活性化するようにしたい。渡米プロジェクトの中で、フォスタークラブが地域の当事者参画のために、取り組みをしていたことが印象的だった。また、フォスタークラブでは、私たちが持ち帰った資料の他にもパーマネンシーの重要性についての冊子やユースの児童保護システムのナビゲーション・ツールの冊子などもあることに最近気づいた。

## ◎ 配布資料についての説明

### 1) 2020年IFCA全国フォスターユース・ネットワークとリーダー育成プログラムの拡充: 日本財団助成事活動内容と成果物 (ワード文書)

以下の3つの目的に沿った活動内容が表としてまとめられている。(2020年1月から2021年3月まで)

- a. 社会的養護の当事者ユース・新メンバーリクルート
- b. 全国ユースリーダー合同会議とチームビルディング
- c. ユースリーダー育成のためのプログラム作成と実施

### 2) 日本財団2020年度収支予算 (エクセル)

### 3) IFCA ユース・プログラム有給活動タイムシート (エクセル)

- 上記のふたつのエクセル文書を配布した理由は、チームメンバーが、今年度のプログラムの資金についておおよその理解を持つこと、それから、ユースたちの有給活動の内容を明らかにすることである。
- 昨年度は、有給活動が2層になっていた。(ユース全員・YPC ユースプログラムコーディネーター)
- 時給1000円の有給活動は「臨時雇用費」から支払われる。活動内容の詳細は3)の書類を参照。

### 4) 2020年度IFCAユースプロジェクト ロジックモデルとワーキング・グループ案 (パワーポイント)

IFCA ユースたちが取り組みたいと考えていた活動を、ふたつの柱のもとにワーキンググループを設定するアイデアについて、全体で話し合った。

この2つのプロジェクトは、どちらも、測定できる成果を出すことを目指した長期活動である。

- a) 自立支援とリーダーシップ・プログラムの作成
    - i. 自立支援ツールとリーダー育成プログラムの作成 (畑山・Aoi)
    - ii. パーマネンシー・パクトの実践 (永野・久保・Koppe)
  - b) ユース・アドボカシーと子どもの権利擁護 (佐藤ちひろ・長瀬)
- 2020年6月から10月の5ヶ月間は、月例ミーティングの場を使って、ワーキング・グループの中で学んだことや、成果などを全国のユースとSAが交代で発表する。
  - YPCは今まで全国規模のイベントやトレーニングを企画・指導する人たちだった。イベントなどが実施できない状況においては、YPCの必要性がなくなる。
  - これからも月例ミーティングは続けて行う。地域チームは、それぞれのリーダーを選出する。
  - ユース・リーダーたちは、司会やファシリテート、議事録・アジェンダづくり、新しいユースのリクルートやメンタリングを主に行ってゆく。
  - すべてのユースが地域活動とワーキング・グループへの参加を自由に行える。
  - いままでどおり、IFCA ユースプロジェクトは「ユース・デベロップメント (内面的な成長)」を目指しているが、今後はそれに加え、結果や成果が明白にわかる活動、次世代のユースたち (団体内・団体外) の自立や大人としての生活に役立つツールやプログラムを開発し、広めてゆく。(例: 自立支援ツールキットの作成、ユース諮問委員会の結成、ユースの権利章典の作成、など)
  - SAは最近、オンライン会議を持ったが、上記の新しいプログラムのアイデアに賛成である。また、昨年度は実現できなかった地域のつながりによりいっそう力を入れるようにする。
  - ワーキング・グループの活動内容を有給活動として認める方向である。
  - 関西チームの「再引越しの困難」のような、リサーチや資料作成に時間をかけたプロジェクトを、継続して行い、地域と国のレベルでの当事者の生活の質の向上に結びつける。

## ◎ その他の議題

- ワイファイやパソコンのないユースのサポートの仕方について。
- 議論活性化のために活動内容を、ペーパーベースで整理する必要性について (西村・長瀬) 具体的にはDropboxなどの情報共有のツールの活用について検討する。
- 福岡チームはユースの参加がなかったため、フォローアップ・ミーティングをする予定。

❖ この会議の録画リンク <https://vimeo.com/409545937>

❖ 次回のミーティングの日時と場所: 2019年5月17日(日) オンライン会議

❖ 記録者の名前 粟津美穂

[IFCA フォーム 2018年6月更新]